

議案第 83 号 小平市立学校給食センター更新事業の事業契約の締結について、生活者ネットワークとして賛成の立場で討論いたします。

本議案は小平市で初めてとなる民間資金等の活用による PFI 手法に基づいた施設更新となり、2019 年度の入札では 1 事業者の参加があったものの人件費等総合的な費用リスクの折り合いが合わず不調に終わっていましたが、今回は運営費の予定金額を上乗せすることにより、3 事業者の競争入札を経て決定しました。契約金額は 61 億 3,549 万 6,959 円、契約期間は令和 19 年 7 月末までと、16 年 7 か月という長い期間で非常に大きな資金を使うこととなります。施設建築から管理・運営までを担うために複数の会社で構成される事業者については、長期間にわたりそれぞれが適正に運営できているかチェックしていく仕組みが必要です。

賛成理由としては、まずひとつめに、1 回目の入札が不調に終わり、更新が延びることで子どもたちが楽しみにしている学校給食の提供に遅れが生じている現状があり、これ以上老朽化しているセンター更新を先延ばしにすることは危険性も高く、また子どもたちへの影響が大きいと考えるためです。

ふたつめとして、小学校同様の自校式は各校で温かい給食が食べられるという意味において本来は望ましい形であると考えますが、現状センター方式で行ってきた経緯があり、各校に調理設備もないことから、これから各校に整備することは場所や人材確保も含めて非常に時間とコストがかかるため、現実的な選択ではないと考えます。親子方式についても、実施すると仮定した場合小中それぞれの調理時間や配送方法を確保する必要があり、調理従事者の負担などを考えても非常に困難であると言わざるを得ません。また、今回の事業者の選定にあたり、3 者の入札により比較検討ができる競争環境があったこと、給食の美味しさにこだわったメニュー開発や提供設備の提案などを重視した点を評価します。

今後の管理運営について、以下 3 点要望いたします。

1 点目、給食の提供について、生活者ネットワークではこれまで食の安全と美味しさ、食育など子どもたちの育ちにとって「よい給食」であることを重視してきました。

更新施設で提供される給食についても、これまで同様できる限り国産や無農薬、地場の食材を使用するよう努めることや、人体への影響について未知の部分が多い添加物や遺伝子組み換え、ゲノム編集の食材については使用しないことを要望いたします。

また更新施設の運用開始予定は令和 5 年 2 月からとのことであり、来年 4 月からは事業者による弁当の提供となりますが、こちらも衛生管理を徹底し、食材や調理方法について質の高い、子どもたちが美味しく楽しめるものを提供してもらえよう要望いたします。

2 点目として、更新期間中、1 年 9 か月にわたり中学校給食に使われる予定だった地場産野菜が行き場を失ってしまうこととなります。農家の方々としては、自分の作った野菜を市内の子どもたちに食べさせることをモチベーションに頑張っている方もいらっしゃる現状があります。市内給食における地場産野菜の使用率 3 割を今後も維持しさらに伸ばしていくために、更新期間中の地場産野菜についても是非市内で有効に活用できるよう方策を積極的に検討するよう要望いたします。

最後に、PFI方式でのセンターの維持管理についてです。今回のPFI方式による契約は令和19年7月末まで16年7か月という長期間にのぼりますが、その間複数の企業がそれぞれ適正な運営をしていくことを市としてどのようにチェックできるのか、疑問が残ります。一社でも経営または運営方針に問題があったり、場合によっては倒産するなどのリスクを抱えた場合、どのように対処していくことができるのか、市でも職員がセンターに籍を置き定期的な会議も行いつつチェックしていくとの答弁がありました。考え得る様々なリスクへの対応について、様々な角度から検証しておくことが非常に重要であると考えます。給食内容とともに経営や財政状況のチェックを行う第三者の検証委員会を設置することも是非検討していただくよう要望します。

また、現在行われている給食運営委員会や生徒との交流ノートのように、保護者や子どもたちの声が届きやすく反映しやすい運営体制づくりの強化への要望についても申し添えます。

以上を申し述べ、賛成の討論といたします。